

笑顔と誇りを未来へつなぐまち 飯南

IINAN

いのく
ありふす
飯南町

いーなん
2025
12
No.252

特集 住みやすい地域へ あなたを見守る民生・児童委員



新たな地域交流拠点が誕生した三日市連坦地

自慢の料理を囲んで交流 志津見収穫感謝祭

お芋料理をみんなで囲む 秋のおいもまつり

志津見振興組合が主催する毎年恒例の「志津見収穫感謝祭」がクラインガルテンクラブハウスで開催されました。

この収穫祭は、自然の恵みに感謝するとともに、地域住民やクラインガルテン入居者などの親睦を深めることを目的に開催。国土交通省、島根県、飯南町の職員なども出席し、会場に並んだ地域の皆さんとの自慢の品などおいしい料理を食べながら、交流しました。

懇親会では楽しい余興も披露され、会場には笑い声や拍手が響きました。



住民によるダンスの披露などで会場は盛り上りました

11.15 土

谷自治振興会主催の「秋のおいもまつり」が、谷笑楽校で開催されました。谷地区で栽培されたサツマイモをきっかけに、住民の交流やつながりを深めるこの企画。サツマイモ料理の完成を待つ間、会場では防災に関するクイズやゲームで、子どもから大人までが盛り上りました。

お待ちかねの昼食は、サツマイモや野菜がたっぷり入った豚汁にサツマイモごはん。お芋餃子やデザートも用意され、おかわりをする子どもたちの行列ができていました。



11.22 土

頓原地区の放課後児童クラブ「たんぽぽ畑」で茶道教室が行われました。たんぽぽ畑では、日本文化に触れながら育つてほしいという目的で、毎月1回茶道教室を実施しています。

子どもたちは扇子を手に、慣れた様子で茶室に入り、床の間を拝見。次の所作を一つずつ確認しながら、お抹茶を頂きました。約20年前から茶道を教える茶道教室会員の皆さんは「大人になつてお抹茶を頂く機会があつたとき、ふとこの体験を思い出してくれるとうれしい」と話しました。



11.21 金

「お点前頂戴します」「温かくておいしい」と元気な声が響いていました

茶道で育む感謝の気持ち たんぽぽ畑茶道教室

志々地区の地域活動に取り組む「志々未来会議」主催の竹灯籠づくりが、さつき会館で開催されました。

参加者は竹筒にドリルを使って穴を開け、花火などの図柄を描いた竹灯籠を作製。約20人の参加者は、真剣な表情で作業に集中していました。参加した子どもたちは「たくさん穴を開けないといけないので大変。でも楽しい」と話していました。

作製した竹灯籠は12月6日から志々未来ひろば（さつき会館横）で開催の志々イルミで披露され、見物客を楽しませました。



11.24 月祝

手作りの灯りで地域を照らす 竹灯籠づくり

きじま里山講座「来島地域のかんな流し」が開催され、12人が参加しました。かんな流しとは、たたら製鉄の原料となる砂鉄を探るため、土砂を水路に流し、砂鉄と土を分離する技術。雲南省文化財課の角田徳幸さんを講師に、かんな流しに使われた水路跡がある琴麓周辺の山の中を散策しました。大規模に組まれた石垣や水路が現れると、参加者からは驚きの声が上りました。

参加者の一人は「身近なところに歴史を感じる場所があると知れてよかったです」と話しました。



講師の角田さん(左端)と興味深く遺跡を観察する参加者

11.26 水

赤名公民館主催の「しめ縄づくり教室」が赤名農村環境改善センターで開催されました。講師を務めたのは、長年しめ縄づくりを行っている藤原恒夫さん（赤名）。参加者は藤原さんにコツを教えてもらいながら藁を燃り合わせ、新年を迎えるためのしめ縄を作成しました。

大きな3連の輪飾りや大黒締め、手のひらサイズのミニしめ縄など、参加者は思い思いの形のしめ縄を作成。「自分の作ったしめ縄で新年を迎えることができるのはうれしい」と話しました。



12.7 日

新年に向けた手仕事 しめ縄づくり教室

赤名公民館主催の「しめ縄づくり教室」が赤名農村環境改善センターで開催されました。

講師を務めたのは、長年しめ縄づくりを行っている藤原恒夫さん（赤名）。参加者は藤原さんにコツを教えてもらいながら藁を燃り合わせ、新年を迎えるためのしめ縄を作成しました。

大きな3連の輪飾りや大黒締め、手のひらサイズのミニしめ縄など、参加者は思い思いの形のしめ縄を作成。「自分の作ったしめ縄で新年を迎えることができるのはうれしい」と話しました。



12.9 火

安心して暮らしが続けるために 災害に強い支え愛づくり研修会

住みよい地域・頓原会議主催の防災研修会が、交流センターとんばらで開催されました。

防災士でもある島根県中山間地域研究センターの東良太研究員が、防災の視点から考える地域づくりを講義。安心して暮らし続けるためには、日頃から近所同士の声かけや、つながりづくりが大切だということを学びました。

研修会には頓原地区の自治区長など19人が参加。参加者は「いざという時のためには、災害への備えを見直したい」と話しました。



12.9 火

安心して暮らしが続けるために 災害に強い支え愛づくり研修会

住みよい地域・頓原会議主催の防災研修会が、交流センターとんばらで開催されました。

防災士でもある島根県中山間地域研究センターの東良太研究員が、防災の視点から考える地域づくりを講義。安心して暮らし続けるためには、日頃から近所同士の声かけや、つながりづくりが大切だということを学びました。



12.9 火

安心して暮らしが続けるために 災害に強い支え愛づくり研修会

住みよい地域・頓原会議主催の防災研修会が、交流センターとんばらで開催されました。

防災士でもある島根県中山間地域研究センターの東良太研究員が、防災の視点から考える地域づくりを講義。安心して暮らし続けるためには、日頃から近所同士の声かけや、つながりづくりが大切だということを学びました。



12.9 火

安心して暮らしが続けるために 災害に強い支え愛づくり研修会

住みよい地域・頓原会議主催の防災研修会が、交流センターとんばらで開催されました。

防災士でもある島根県中山間地域研究センターの東良太研究員が、防災の視点から考える地域づくりを講義。安心して暮らし続けるためには、日頃から近所同士の声かけや、つながりづくりが大切だということを学びました。



12.9 火

安心して暮らしが続けるために 災害に強い支え愛づくり研修会

住みよい地域・頓原会議主催の防災研修会が、交流センターとんばらで開催されました。

防災士でもある島根県中山間地域研究センターの東良太研究員が、防災の視点から考える地域づくりを講義。安心して暮らし続けるためには、日頃から近所同士の声かけや、つながりづくりが大切だということを学びました。



12.9 火

安心して暮らしが続けるために 災害に強い支え愛づくり研修会

住みよい地域・頓原会議主催の防災研修会が、交流センターとんばらで開催されました。

防災士でもある島根県中山間地域研究センターの東良太研究員が、防災の視点から考える地域づくりを講義。安心して暮らし続けるためには、日頃から近所同士の声かけや、つながりづくりが大切だということを学びました。



12.9 火

安心して暮らしが続けるために 災害に強い支え愛づくり研修会

住みよい地域・頓原会議主催の防災研修会が、交流センターとんばらで開催されました。

防災士でもある島根県中山間地域研究センターの東良太研究員が、防災の視点から考える地域づくりを講義。安心して暮らし続けるためには、日頃から近所同士の声かけや、つながりづくりが大切だということを学びました。



12.9 火

安心して暮らしが続けるために 災害に強い支え愛づくり研修会

住みよい地域・頓原会議主催の防災研修会が、交流センターとんばらで開催されました。

防災士でもある島根県中山間地域研究センターの東良太研究員が、防災の視点から考える地域づくりを講義。安心して暮らし続けるためには、日頃から近所同士の声かけや、つながりづくりが大切だということを学びました。



12.9 火

安心して暮らしが続けるために 災害に強い支え愛づくり研修会

住みよい地域・頓原会議主催の防災研修会が、交流センターとんばらで開催されました。

防災士でもある島根県中山間地域研究センターの東良太研究員が、防災の視点から考える地域づくりを講義。安心して暮らし続けるためには、日頃から近所同士の声かけや、つながりづくりが大切だということを学びました。



12.9 火

安心して暮らしが続けるために 災害に強い支え愛づくり研修会

住みよい地域・頓原会議主催の防災研修会が、交流センターとんばらで開催されました。

防災士でもある島根県中山間地域研究センターの東良太研究員が、防災の視点から考える地域づくりを講義。安心して暮らし続けるためには、日頃から近所同士の声かけや、つながりづくりが大切だということを学びました。



12.9 火

安心して暮らしが続けるために 災害に強い支え愛づくり研修会

住みよい地域・頓原会議主催の防災研修会が、交流センターとんばらで開催されました。

防災士でもある島根県中山間地域研究センターの東良太研究員が、防災の視点から考える地域づくりを講義。安心して暮らし続けるためには、日頃から近所同士の声かけや、つながりづくりが大切だということを学びました。



12.9 火

安心して暮らしが続けるために 災害に強い支え愛づくり研修会

住みよい地域・頓原会議主催の防災研修会が、交流センターとんばらで開催されました。

防災士でもある島根県中山間地域研究センターの東良太研究員が、防災の視点から考える地域づくりを講義。安心して暮らし続けるためには、日頃から近所同士の声かけや、つながりづくりが大切だということを学びました。



12.9 火

安心して暮らしが続けるために 災害に強い支え愛づくり研修会

住みよい地域・頓原会議主催の防災研修会が、交流センターとんばらで開催されました。

防災士でもある島根県中山間地域研究センターの東良太研究員が、防災の視点から考える地域づくりを講義。安心して暮らし続けるためには、日頃から近所同士の声かけや、つながりづくりが大切だということを学びました。



12.9 火

安心して暮らしが続けるために 災害に強い支え愛づくり研修会

住みよい地域・頓原会議主催の防災研修会が、交流センターとんばらで開催されました。

防災士でもある島根県中山間地域研究センターの東良太研究員が、防災の視点から考える地域づくりを講義。安心して暮らし続けるためには、日頃から近所同士の声かけや、つながりづくりが大切だということを学びました。



12.9 火

安心して暮らしが続けるために 災害に強い支え愛づくり研修会

住みよい地域・頓原会議主催の防災研修会が、交流センターとんばらで開催されました。

防災士でもある島根県中山間地域研究センターの東良太研究員が、防災の視点から考える地域づくりを講義。安心して暮らし続けるためには、日頃から近所同士の声かけや、つながりづくりが大切だということを学びました。



12.9 火

安心して暮らしが続けるために 災害に強い支え愛づくり研修会

住みよい地域・頓原会議主催の防災研修会が、交流センターとんばらで開催されました。

防災士でもある島根県中山間地域研究センターの東良太研究員が、防災の視点から考える地域づくりを講義。安心して暮らし続けるためには、日頃から近所同士の声かけや、つながりづくりが大切だということを学びました。



12.

仁井さんは、昭和56年1月から平成16年12月までの7期24年6ヶ月にわたり、赤来・飯南町議会議員として地方自治の発展に貢献。豊富な経験と卓越なる見識と、強固な政治信念をもって、赤来町・飯南町の教育、文化、住民福祉等の向上に注力され、本町の発展に寄与されました。

「税に関する絵はがきコンクール」は、税金が私たちの暮らしどのように役立っているのか、税の意義や役割などを理解し、その必要性や使い道について考えてもらいため、小学生を対象に毎年実施されています。今年は大東税務署管内から405点の応募があり、町内から9人が表彰されました。受賞者は次のとおりです。

【コンクール受賞者】



飯南町長賞 吾郷 柚來さん



雲南青色申告会連合会長賞 澤田 七彩さん

「税の役割や大切さを学ぶ
税に関する絵はがきコンクール」



作品は町ホームページに掲載しています。



商品のおすすめポイントをしっかりと伝えました

赤来、頓原中学校の生徒が、交流体験学習(修学旅行)で訪れた神奈川県横浜市の商店街で、PR活動を行いました。特産品や地域の魅力を自分の言葉で伝えることで、ふるさとに対する理解と愛着を深めることや、販売活動を通してお互いに協力する力を育むことが目的。飯南米やしめ飾り、りんごジュースなどを販売し、生徒たちは商店街中に響く声で接客や販売活動を行いました。生徒の実行力や発信力を培う良い機会として、今後も販売体験活動を続けていきます。



「豚肉がやわらかく、ごはんが進む味でおいしい」と笑顔(11月26日来島小)

中学生が
飯南町をPR

11月14日(金)

飯南町の食材を
給食で

11月1日(土)
～30日(日)

島根県では、6・11月を「しまね・ふるさと給食月間」とし、学校給食に地域でとれた食材や食品を取り入れる取組を行っています。11月には、町内どれた舞茸、焼きいも、豆腐などを使った給食を町内の小中学校で提供。11月26日には飯南高原ポークの南蛮漬けが出され、給食時の放送でも紹介されました。給食を教材とした食に関する授業や、地域の旬の食材や生産者を紹介するなど、食育の取組にも力を入れています。



丸山知事から仁井さん(写真右)に伝達されました



勲記を手にする石田さん

仁井さんは、昭和56年1月から平成16年12月までの7期24年6ヶ月にわたり、赤来・飯南町議会議員として地方自治の発展に貢献。豊富な経験と卓越なる見識と、強固な政治信念をもって、赤来町・飯南町の教育、文化、住民福祉等の向上に注力され、本町の発展に寄与されました。

石田さんは、昭和37年に島根県に奉職して以来約36年間、農業改良普及・指導に打ち込み、津和野農業改良普及所長、出雲農林振興センター農業振興部長、木次農業改良普及センター所長等を歴任。島根県の農業行政の発展に大きな功績を残されました。

●高齢者叙勲旭日単光章
仁井康富さん(上赤名)

●高齢者叙勲瑞宝双光章
石田一秀さん(上赤名)

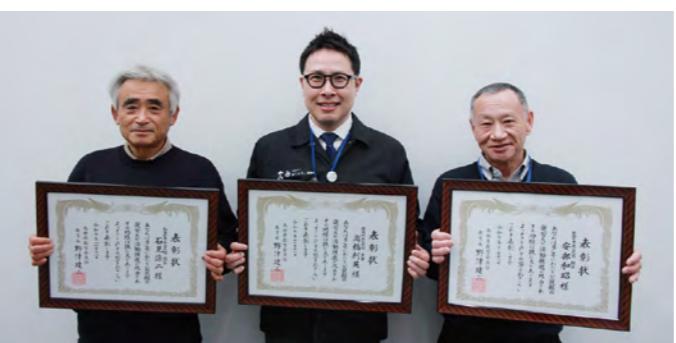
公民館活動の振興に顕著な功績があつたとして、次の公民館職員が、島根県教育委員会教育長から表彰されました。

●谷公民館
主事 高橋利英さん

高橋さんは、谷公民館と谷自治振興会が連携し、地域課題解決等に取り組めるよう事業を計画・実施。既存事業を実施する際も、常に新しい仕組みや工夫を取り入れ、事業内容の改善を図っています。

赤名公民館
館長 安部和昭さん

石見さんは、コロナ禍で縮小傾向にあつた地区運動会の実施方法を変更し、地域住民が参加しやすい工夫や考慮を重ね実施。赤名公民館運営協議会委員の活動回開催し、運営協議会委員の活動の活性化を図っています。



左から石見館長、高橋主事、安部館長

優良公民館職員表彰を受賞



活動報告を受けそれぞれの立場から地域課題の解決に向けたアイデアを考える参加者



飯南米試食では「いつも飯南米を買っています」と嬉しい声も(東京会場)



靴磨き職人 安部春輝さん、モデルみさとさん(いずれも町出身者)によるトークイベント(広島会場)

町内の保健、医療、介護、福祉関係者を招き、飯南町地域ケアフォーラムを開催しました。「ひと×地域」(Connect)をテーマに介護士、医師などが日頃の活動や事例を発表。姉妹病院である京丹後市立久美浜病院の理学療法士からも取組発表をいただきました。

第2部では「わっしょい志々会」が、地域の多様な関係者と連携して行う「声かけ訪問」などの活動を報告。参加者は地域課題解決に向け、人のつながりをどう活かすかを話し合いました。

多様な職種での情報共有や意見交換が、地域包括ケアの推進の基盤となっています。

飯南町地域ケアフォーラム開催

11月29日(土)

飯南町 収穫祭を開催

11月15日(土)
16日(日) 東京
12月6日(土)
7日(日) 広島

食や文化をきっかけに、まちのファンを増やすことを目的に、AKO GOMBEYA TOKYO神楽坂店(東京都)、広島駅ビル minamo(広島市)で「飯南町収穫祭」を開催しました。

飯南米の試食や特産品の販売では、生産のことだわりやおいしさの秘訣を丁寧に説明。しめ縄飾りづくり体験は、まちの歴史や文化を知つてもらうつながりを深めました。

まちの魅力に共感し、町外から飯南町を応援してくれる人々との関係が深まっています。



川尻公民館

電源立地地域対策 交付金事業で 公共施設の敷地を整備

電源立地地域対策交付金を活用して、町有地の川尻公民館の敷地を整備しました。この交付金は、発電用施設の設置に対する理解促進のために、水力発電などの発電施設がある市町村に対し交付され、公共施設の利便性向上や地域住民の福祉向上のために活用されます。

今後もこの交付金事業を活用し、地域の施設整備などを行います。

エコロジー米の生産拡大を目的とした「第16回飯南町エコロジー米生産者大会」を来島交流センターで開催しました。東京農工大学 豊田剛己教授の飯南町の水稻調査に関する講演や、JAしまねから、米穀情勢や飯南米の流通状況に関する情報提供が行われました。

今大会に合わせて、特別栽培米のブランド化と栽培技術の向上に役立てるため、「第18回うまい米コンテスト表彰式」を開催。コンテストの受賞者は次の皆さんです。(敬称略)

- 受賞者
- 【金賞】株式会社ファーム木精(奥畑)
- 【銀賞】山戸栄吉(角井)
- 【銅賞】農事組合法人晴雲(花栗)



副町長から受賞者へ賞状が渡されました



飯南米普及に向け、多くの生産者が参加

エコ米生産者大会・ うまい米コンテスト表彰式を開催

11月27日(木)

新農業人フェア 出展

11月23日(日)

「新農業人フェア」が東京ビッグサイトで開催され、本町も相談ブースを出展しました。国内最大級の就農イベントで、全国各地から自治体や農業法人などが出展。来場者は各ブースで就農支援制度や農業研修制度などについて相談していました。



手厚い研修制度や就農支援施策について説明

本町は産地化を目指すパブリカによる就農や農林業定住研修制度を中心に説明し、移住県外での移住相談や情報発信の機会を設け、移住促進や研修制度などについて相談していました。

このワークショップは、レゴブロックを使って、思いやビジョンを自分の言葉で相手に伝えるもの。

「10年後の飯南町に残しておきたいこと」「10年後のため明日ができること」をテーマに、対話をしながら他の者の価値観を尊重する視点を持つことを学びました。

この講座を通して、対話の重要性を実感し、地域活動や交流が積極的に生まれることを期待しています。



「普段あまり関わらない人の思いを聞いてよかったです」との声も

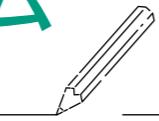
レゴブロックを使った 研修会を開催

11月29日(土)

healthy column.

健康コラム

保健 医療 介護 福祉



●飯南病院 ☎ 72-0221 ●来島診療所 ☎ 76-2309 ●保健福祉センター ☎ 72-1770

飯南病院
便り

冬のレジャーを楽しむために

初期臨床研修医
松江赤十字病院
よこはた まい
横畠 舞

初めまして。松江赤十字病院から来ました、研修医の横畠舞と申します。私は幼いころからスキーをしており、琴引フォレストパークスキー場へも何度も滑りに来たことがあります。そこで今回は、ワインタースポーツで多い怪我と、その予防について紹介しようと思います。

怪我の種類について、スキーでは転倒やねじれによる膝の靱帯損傷(特に前十字靱帯損傷)が多くみられます。一方でスノーボードでは、手をついた際の手首の骨折や、肩の脱臼が代表的です。これらの怪我は手術や長期のリハビリが必要になる場合があります。できれば怪我をしないように、また怪我をしても軽症で済むように予防したいですね。

ワインタースポーツの怪我予防について、まずは身体に合った道具選びが重要です。スキー板やスノーボードの長さ、ビンディングの設定、ブーツのサイズが体格や技量に合っていないと、転倒時に過剰な力が関節にかかるたり、安全装置がうまく作動しなかつたりすることがあります。特にスキーではビンディングの解放値が重要です。必ず専門スタッフに設定を確認してもらいましょう。そしてブーツの正しい履き方や道具の持ち方なども、専門のスタッフに教えてもらうといいと思います。

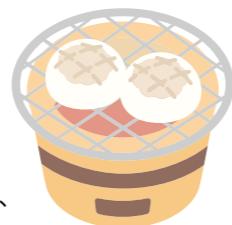
また、防具の着用も効果的です。ヘルメットは万が一の転倒時の頭部への衝撃を大きく減らし、軽傷で済ませる効果があります。頭部外傷は命にかかわる場合があるため、ぜひヘルメットの着用を習慣にしましょう。そして忘れないのがゴーグル。雪面からの紫外線反射は強く、無防備な状態では「雪目(紫外線角膜炎)」を起こし、数時間～1日後に強い痛みや涙が出ることもあります。ゴーグルを着用し、眼の保護を心がけましょう。

身体に合った装備で、楽しい冬をお過ごしください。

保健福祉センター
便り

餅をおいしく食べましょう!

野菜摂取で血糖値を緩やかに

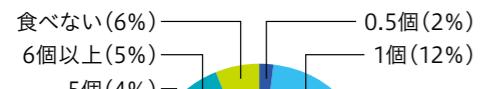


年末年始は、お雑煮や焼き餅など餅を食べる機会が増えます。餅は血糖値が上がりやすい食品の1つでもあります。しかし、野菜をしっかり食べることで、血糖値の上昇が緩やかになることがわかっています。

住民の皆さんにアンケートを取りました

令和7年度事業所健診(9月実施分のみ)、地域のイベント、健康にいへんやん相談会で皆さんにお聞きしました。

1回に何個餅を食べますか?



餅を3個以上食べている人は
約4割

餅が血糖値を上げやすい理由

- もち米は消化が早く、食後血糖値が急に上がりやすい
- 餅2個(1個約50グラム)でごはん1杯分の糖質
- 柔らかく、噛まずに早食いしやすい

血糖値を安定させる食べ方のコツ

- 野菜→たんぱく質→餅の順に食べる
- 野菜多めの副菜を添える
- 早食いに注意!
 - しっかり噛むことを心がけましょう
 - 1口食べたら箸を置いて、1呼吸
 - 1食の餅の目安は1～2個まで



おいしく餅を楽しみながら、野菜をしっかり摂ることで血糖値の上昇を防ぎ、健康的な食生活に!

コラム



来て、見て、知った! 飯南町のこと(6)

役場まちづくり推進課の神谷です。(株)AKOMEYA TOKYO(アコメヤ)から、国の企業人材派遣制度を利用して、昨年度から飯南町役場で勤務しています。

新米としめ飾り

実りの秋になり、今年も飯南町で収穫された飯南米「コシヒカリ」と「縁結び」の新米が、アコメヤの全店に並びました。11月には、長谷営農組合の和田幹雄さんに、神楽坂店、高輪店で試食販売をしていただきました。和田さんの人柄も大人気でしたが、それに負けず劣らず、恵まれた環境で栽培された飯南米の甘み、うまみに感動される方が多かったのが印象的です。

とうとう今年も残りわずか。昨年に続き、今年も飯南町大しめなわ創作館の皆さんに制作していただいた正月用しめ飾りを、アコメヤで販売しています。今年は、北は仙台、南は福岡



生産者から直接おいしさを伝えてもらうことを大切に

県の天神まで、全店舗で展開。飯南町に昔から伝わる”とろい馬”を、来年の干支である馬と掛けてデザインし、さまざまな形に仕立てていただきました。9ページにも掲載していますが、イベントの時にはしめ飾りづくり体験も行い大人気。飯南町のしめ縄文化、来年の出雲大社神楽殿の大しめなわ架け替え決定といった話題で、飯南町を印象付けられたのではないでしょうか。

丹精込めて作られた、飯南米としめ飾り。今回もたくさんの方の目に触れ、手に取ってもらい、飯南町に関心を持つてもらえることだと思います。



外国の方で体験への飛び入り参加や、しめ飾りを購入する方も

みんなでつくる! 笑顔あふれる飯南暮らし

「笑顔あふれる飯南暮らし」をテーマに各地域で取り組まれている活動を取り上げていきます。

第5回 雪と不安を吹き飛ばす ~除雪ボランティア団体を紹介~

今年も雪の時期がやってきました。昨シーズンの赤名の最大積雪深は94センチ。累計の降雪量は432センチでした。1月9日には、37センチの降雪があり雪かきに追われた記憶があります。近年は少なくなったとはいえ、ドカ雪と呼ばれる一度にたくさん降る雪に翻弄されることも多いような気がします。

今回は、この雪の時期に地域の安心・安全のために活動している、地元有志で結成された除雪ボランティア団体を紹介します。

近年の降雪の様子(観測地点:飯南町赤名)

年 度	R6	R5	R4	R3	R2	H29	H22	H16
最大積雪深(センチ)	94	40	70	40	106	123	152	100
累計降雪量(センチ)	432	180	254	452	446	453	780	645
最大降雪量(日)(センチ)	37	26	36	29	48	60	52	35

スノーレンジャー谷(谷地区)

平成21年に住民有志で結成。隊員は15人(R7.12.1現在)。小型除雪機のほか、小型除雪ホイールローダー(4トン級)で谷地区内の高齢者宅や木戸道などの除雪を実施。

●谷地区除雪の依頼はこちらへ

スノーレンジャー谷(谷地区)
☎ 76-3629(谷公民館内)



スノーヘルパー(赤名地区)

平成29年に住民有志で結成。隊員は68人(R7.12.1現在)。小型除雪機のほか、人力(スコップ)で赤名連坦地内の高齢者宅前、通学路等の除雪を実施。レディーススノーヘルパーは高齢者宅の見守り活動を実施。

●ボランティア活動に興味ある方、

参加したい方はこちらまで
スノーヘルパー(赤名地区)
☎ 76-3100
(赤名農村環境改善センター内集落支援員)



自衛官候補生募集 (陸上・海上・航空)

- 応募資格 日本国籍を有し、18歳以上33歳未満の人(採用予定月の末日現在)
- 試験種目 筆記試験、適性検査、口述試験、身体検査、経歴評定
- 試験期日 (筆記試験・適性検査)※ウェブ試験方式
2月7日(土)
(口述試験・身体検査)2月14日(土)
- 試験会場 陸上自衛隊出雲駐屯地
- 応募期限 1月29日(木)
- 問合せ 自衛隊島根地方協力本部募集課
0852-21-0015

宮農と暮らしに役立つ農業専門紙 「全国農業新聞」

- 毎週金曜日発行
- 購読料 月700円(税・送料込)
- 問合せ 農業委員会事務局 76-2214

求人情報

無料職業紹介所で受け付けた求人を紹介します。詳しい内容を知りたい方、このほかの求人情報をご覧になりたい方は、お問い合わせください。求人情報の閲覧のみも可能です。

飯南町無料職業紹介所
(役場まちづくり推進課内)

76-2864

※表示のない市外局番は「0854」です



(株)いいなん		72-1080
バイオマス製造機の製造、農作物栽培作業 普通自動車運転免許(AT限定不可)	パート 1人	◎日8,500円
一般廃棄物受託業務(家庭ごみ収集、分別作業) 普通自動車運転免許	フルタイム パート 1人	◎日8,500円~
バイオマス製造機の製造、農作物栽培作業(正社員) 普通自動車運転免許(AT限定不可)	フル 1人	◎月143,792~167,200円

(株)一福		72-0006
ホール業務全般(レジ、接客、洗い場、簡単な仕込み他) 特になし	パート 2人	◎平日1,033円 ◎土日祝1,083円

加田の湯		76-3357
浴室管理、フロント受付、施設内外の掃除、買い出し、配達 特になし(経験者優遇)	パート 1~2人	◎時1,040円~1,250円

飯南町地域づくり協同組合		72-0097
派遣先により命ぜられた業務(農業・製造業・サービス業等)	フル 2人	◎月180,000~300,000円

令和8年度「緑の募金公募事業」 実施団体募集

「緑の募金公募事業」は、皆さんからの「緑の募金」を活用して、地域の団体や学校などが、緑化活動に取り組む事業です。緑化活動を通じて「住みよい地域」の実現を目指す皆さんからの応募をお待ちしています。

● 対象事業

- ・森林整備事業:学校林整備など
- ・環境緑化事業:地域の憩いの場の緑化など
- ・緑化普及事業:イベント開催など
- ・国際緑化協力事業:砂漠化防止など

● 交付限度額 50万円以内

※対象事業に応じて、補助率が異なります。

● 応募期限 令和8年1月30日(金)必着

※その他、詳細はお問い合わせください。

- 問合せ 公益社団法人
島根県緑化推進委員会
0852-21-8049



島根県
緑化推進委員会
ホームページ

年末年始の休業日

業務区分	休業期間など
役場本庁舎・各支所	12月27日~1月4日 ※緊急の連絡、戸籍に関する届出は休業中も受け付けます(本庁舎、頓原基幹支所のみ)
飯南病院・来島診療所	12月27日~1月4日 ※救急の場合は休業中も受け付けます(飯南病院のみ)
保育所	12月28日~1月4日
図書館	【中央館】12月29日~1月3日 【頓原館】12月27日~1月4日
いいしきーン センター	【直接搬入】12月27日~1月4日 【可燃ごみ収集】12月27日~1月4日 ※30日のみ収集有り
三刀屋斎場	1月1日~1月2日
町営バス	赤名吉田線は無休、 その他の路線は12月27日~1月4日

※年明けの可燃ごみ収集は、1月5日から。不燃ごみ収集は、各戸配布の収集カレンダーのとおりです。

- 問合せ 役場本庁舎 76-2211
頓原基幹支所 72-0311

地域おこし協力隊と一緒に 地域活性化に取り組みませんか

町外から移住し活動する地域おこし協力隊員と共に、地域課題の解決や、新たな価値を生み出す活動などを実施したいとお考えの企業、団体はご相談ください。

【地域おこし協力隊とは】

都市部から人材を受け入れ、地域活性化に取り組む総務省の制度。隊員は受入団体や地域住民と協働し、「地域力の維持・強化に直接資する活動」「公益性のある活動」に取り組みます。

● 隊員が実施できる地域協力活動の例

- ・地域おこし支援(地場産品の開発、空き家利用など)
- ・農林水産業(農作業支援、耕作放棄地再生など)
- ・住民の生活支援(通院・買い物のサポート、見守りサービスなど)

活動内容や要件によっては、企業、団体への受入ができる場合もあります。詳しくはご相談ください。

- 問合せ まちづくり推進課 76-2864

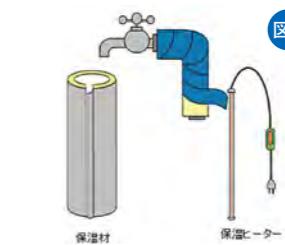
水道管の破裂事故に注意

毎年冬には、町内の多くの家庭で、水道管の凍結や破裂、漏水が発生しています。気温がマイナス4度以下になると、水道管凍結の危険性が増しますので、早めの対策をお願いします。

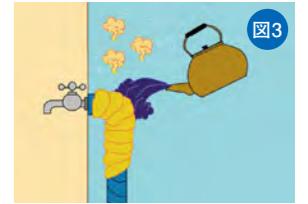


- 水道メーターから最も遠い水道の蛇口から少しずつ水を出す(図1)

- 屋外配管は保温材で巻く(図2)



- 水道管が凍結したら「ぬるま湯」でゆっくり温める(図3)



- 長期間、家を留守にするときは止水栓を閉め、家の中の水道の蛇口を1ヵ所開ける(図4)



- 漏水が疑われるときは、屋内外の全ての蛇口を開めた状態で、水道メーターのパイロット(銀色のコマ)を確認する(図5)



- 水道メーターはいつでも確認できる状態にする

- 留守宅がある場合は、地域でも確認をする

- 漏水した場合は、止水栓を閉めて水を止め、指定給水装置工事事業者に修理を依頼する
※水道メーターより宅内側は個人管理部分となります。

- 詳細はホームページをご確認ください。
問合せ 建設課 76-3942



町ホームページ

2026

1

まちのスケジュール

■教育 + 健康・保健 ★文化・体育 ♦その他

1 木 元日 ★元旦マラソン(頓原・志々)

2 金

3 土

4 日

5 月 ♦官公庁仕事始め
♦保育所始め

6 火

7 水 ■飯南高始業式

8 木 ■町内小中学校始業式

9 金 ♦行政相談(さつき会館)
♦飯南スマホ教室(交流センターとんばら)

10 土

11 日 ♦消防出初式(みせん)

12 月 成人の日

13 火 ♦飯南スマホ教室(赤名公民館)

14 水 +オレンジカフェ(交流センターとんばら)

15 木 +1歳6か月児・3歳児健診(保健福祉センター)

16 金 ■来島小授業公開日

17 土

18 日 ♦「しまね家庭の日」
♦ストーリーテリング(中央図書館)

19 月

20 火 +オレンジカフェ(赤名福島邸)

21 水 +ほっとCafé 食講座【パッククッキング、防災】(来島保健センター)

22 木

23 金 ♦はぴこ無料結婚相談会(役場本庁舎)※予約制
■志々小學習公開日24 土 ★飯南町スキーカンペーン開幕祭(野川スキー場)
+オレンジカフェ(上赤名会館)

25 日

26 月

27 火 ♦飯南スマホ教室(赤名公民館)

28 水 ♦まちづくり講演会(来島交流センター)

29 木 ■小学校一日入学(頓原・志々・赤名・来島)
♦飯南スマホ教室(来島交流センター)30 金 +オレンジカフェ(つがか交流センター)
♦飯南スマホ教室(交流センターとんばら)

31 土

〈毎週火・水・金曜日〉 + ほっとCafé(来島保健センター)

町の人口 4,260人(前月比-16人) 世帯数1,982戸 R7.12.1 現在

「ルーツ
いいなん
53

このまちに住んでいようと、なかろうと、ルーツをたどれば飯南町、生まれや育ちは違っても、飯南町に縁ゆかりがある。そんな人たちを紹介します。今回登場した人が次の人の指名。つながり続くよどこまでも。

ふるやとの温かさを胸に、
命と向き合うやまもと げんた
山本 現太

飯南町頓原出身。頓原中、飯南高卒業。高校では野球部で活躍。広島市消防局に入職し、現在は救急救命士合格に向けて勉強中。(広島市在住)



広島市消防局消防官として、災害対応や救助対応などの業務にあたる山本現太さん(32歳)。消防官を目指したきっかけは、高校2年生の時に発生した東日本大震災だとあります。「メテ」アイを通して、被災地で援助活動に取り組む警察官や消防官の姿を目

にして、公安職に就きたいと感じました」と当時を振り返ります。
「傷病者を病院に搬送し、感謝の言葉をかけてもらつた時は、消防の仕事にやりがいを感じます。一方で、残念ながら自分の無力さを痛感する場面もあります」と山本さん。

多くの命を救いたいと、今年から救急救命士を目指し勉強を続けています。仕事に打ち込む一方、休日は子どもたちとの時間を大切にしたいと話す山本さん。子育てを通して、人とのつながりが強い飯南町の良さを改めて感じたと語ります。

「おはあちやんは山本家で一番パワフル。今つと元気になれる人。まだまだ元気に地元を盛り上げてほしい」と山本さん。町外に住んで気付いたふるさとの良さや、家族への優しい思いを話してくれました。

今日の表紙
飯南町滞在型地域交流拠点施設が完成。施設の愛称は、飯南高校生と教職員の応募の中から「三日市NODE」に決まりました。

NODEには「結び田」や「接点」という意味があり、この施設が高校生と地域住民との交流の場になってほしいという思いが込められています。

令和8年4月から運用開始。飯南高校生の学びと地域の活力が育まれる場としての活用を目指します。



撮影:野津研一



飯南町公式SNS

スマホで
広報誌を
読んでみ
ませんか

マチイロ